

早期胃がん（内視鏡的粘膜下層剥離術）



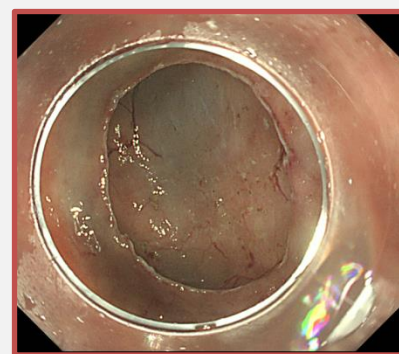
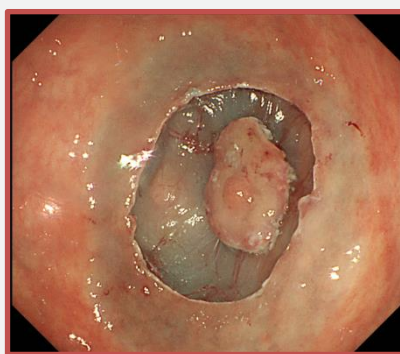
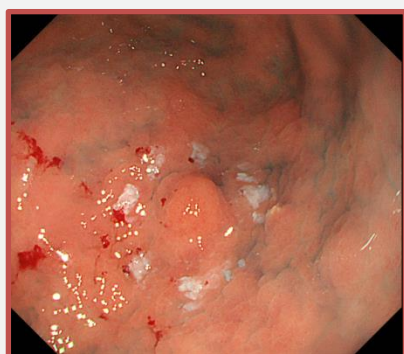
市立大津市民病院における、2021 年度上部消化管内視鏡検査件数は 5226 件、早期胃がんに対する内視鏡的治療は 38 件でした。日本消化器内視鏡学会指導医 3 名、専門医 6 名の体制でチーム医療を行っています。

胃がんの治療方法は、外科で行われる腹腔鏡下手術や開腹手術、抗がん剤治療などがあります。なかでも、リンパ節転移の可能性が低い早期胃がんに対しては、内視鏡的手術：内視鏡的粘膜下層剥離術が行われます。非常に早い段階のがんは、侵襲の少ない内視鏡治療で完治できるのです。



内視鏡的粘膜下層剥離術について

- ① 口から内視鏡を入れてがんの周囲に印をつけます。
- ② 印の周囲をメスで切って溝を作ります。
- ③ がんを周囲の粘膜ごとはがして切り取ります。



- ④ 切り取った跡には大きな潰瘍ができますので、安静・絶食・点滴・内服薬による治療などが必要です。

組織は病理検査で最終診断をして、その後の治療や経過観察の判断材料とします。すべての結果については、後日主治医より説明致します。

より詳しいことは、冊子を作成しておりますので是非参考にして下さい。

私

たちにお任せください



市立大津市民病院 消化器内科